



株式会社オプトラ
**個人投資家様向け会社説明会
ご説明資料**

2019年6月1日（土）

I. 当社の概要	P 2
II. オプトランの技術	P 9
III. オプトランの事業戦略	P15
IV. 今後の成長戦略	P20
Appendix	P27

I. 当社の概要

- 会社概要
- マネジメント体制
- 会社沿革
- 代表的な当社製品
- 業績推移
- 決算ハイライト（連結）

Our Vision

『薄膜技術の限界にチャレンジすることを通じ、高度情報化社会への貢献を実現する。』

当社は、「オプトナテクノロジーによる光学薄膜成膜のプロセスソリューション提供」を事業コンセプトとしており、光学薄膜・真空技術などの分野で、グローバルな業界をリードし、先端的技術を反映した製品やきめ細かいサービスを提供することで、新たなIoT社会への貢献を目指します。

主な事業内容	光学薄膜装置等の製造販売事業
設立年月日	1999年8月25日
創業者	取締役会長 孫 大雄
代表者	代表取締役社長 林 為平
従業員数 (連結)	636名 (2018年12月31日現在)
資本金	400百万円
所在地	本店 埼玉県川越市竹野10-1 (川越技術センター) 本社 東京都豊島区西池袋1-11-1
上場市場	東証一部 (証券コード: 6235)

主なグループ会社

【子会社】

- 光馳科技（上海）有限公司
- 光馳科技股份有限公司（台湾）
- Optorun USA, INC.

【持分法適用会社】

- 浙江晶馳光電科技有限公司
- Afly solution Oy

技術的バックグラウンドを有する国際的なマネジメントチーム Global & Professional Management Team



取締役会長
孫 大雄

1976年 中国蘇州医薬公司
1991年 埼玉大学大学院修士課程修了
1991年 (株)シンクロン入社
1999年 当社創業
2000年 当社代表取締役社長
2019年 当社取締役会長
電気工学修士



代表取締役社長
林 為平

1981年 中国上海半導体デバイス研究所
1993年 電気通信大学大学院修了
1993年 (株)東京電子冶金研究所
2000年 当社入社
2014年 当社代表取締役社長就任
電気工学修士



取締役 専務執行役員
管理部長 兼 経営企画室長
高橋 俊典

1972年 (株)日本債券信用銀行入行
1979年 Wharton Business School
1998年 日債銀投資顧問(株)常務取締役
1999年 ムリリンチ日本証券(株)
2001年 当社上級執行役員
2001年 当社取締役
2018年 当社取締役専務執行役員管理部長
MBA,米国公認会計士



取締役 専務執行役員 技術開発本部長
範 寛

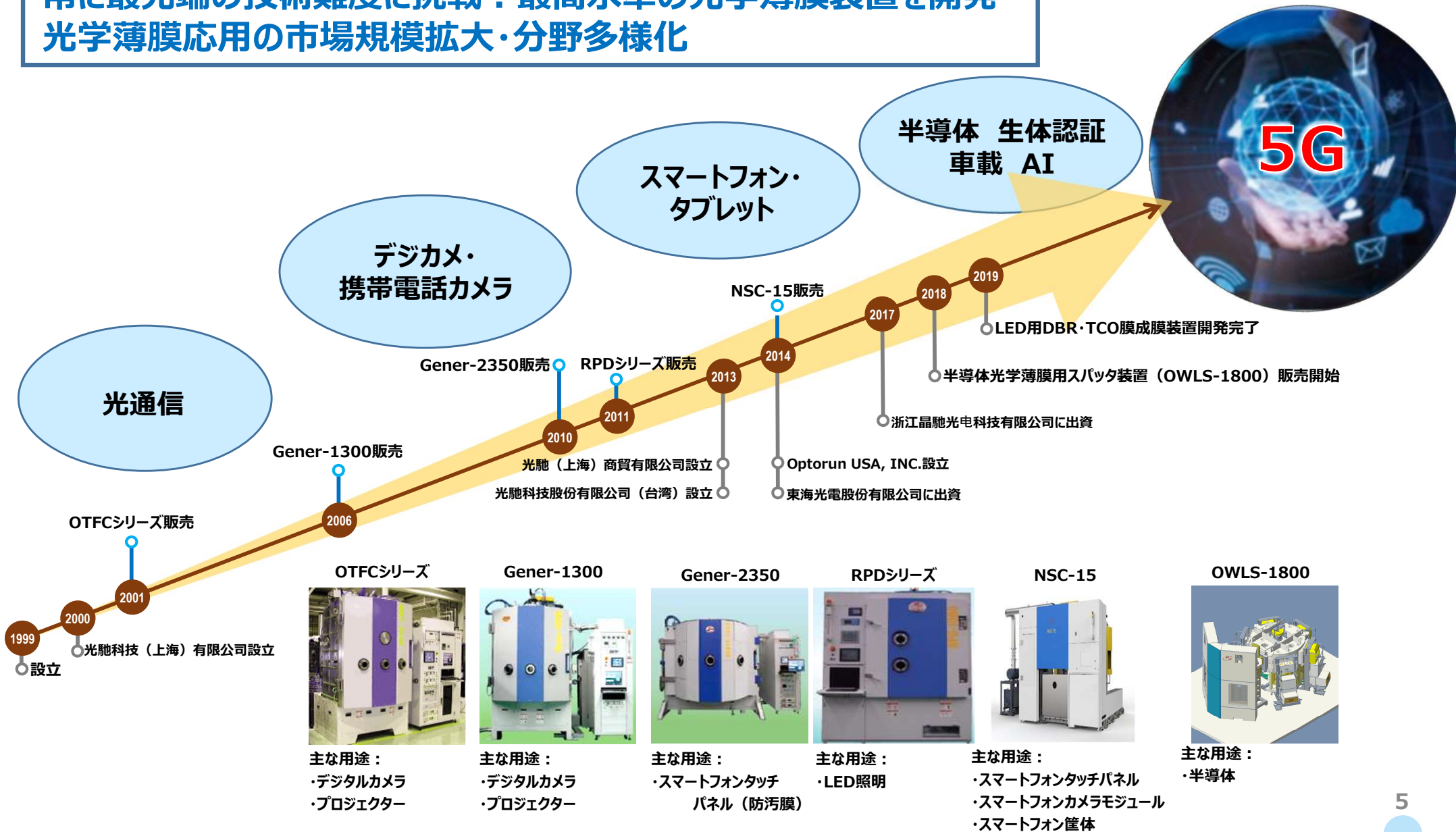
1994年 中国科学院上海技術物理研究所入所
1999年 中国科学院上海技術物理研究所博士
2000年 当社入社
2017年 当社常務執行役員技術開発部長
2019年 当社取締役専務執行役員
技術開発本部長
工学博士



執行役員 営業部長
奚 建政

2000年 University of Newcastle 博士
2000年 当社入社
2017年 当社執行役員就任
光馳科技(上海)有限公司
総経理
2019年 当社執行役員営業部長
物理学博士

常に最先端の技術難度に挑戦：最高水準の光学薄膜装置を開発
光学薄膜応用の市場規模拡大・分野多様化



光学薄膜形成装置 (OTFCシリーズ)



【薄膜形式】

- イオンビームアシスト蒸着方式

【主な用途】

- デジタルカメラ、プロジェクター等
各種光学部品

【主な成膜機能】

- IRカットフィルタ、帯域フィルタ、
ARコーティング等のシフトレス
光学フィルタ

光学膜用スパッタ成膜装置 (NSC-15)



【薄膜形式】

- スパッタリング方式

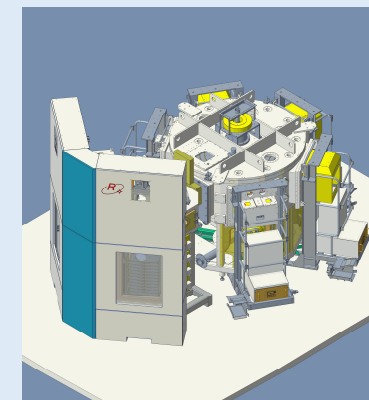
【主な用途】

- 量産用に適したモデル
- スマートフォン
 - ・タッチパネル
 - ・筐体
 - ・カメラモジュール

【主な成膜機能】

- ハード反射防止膜
- カラー装飾膜

半導体光学薄膜用スパッタ装置 (OWLS-1800)



【薄膜形式】

- スパッタリング方式

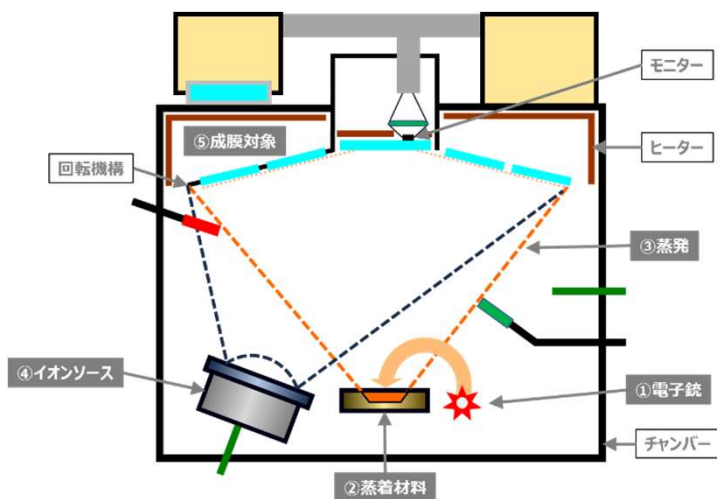
【主な用途】

- 半導体

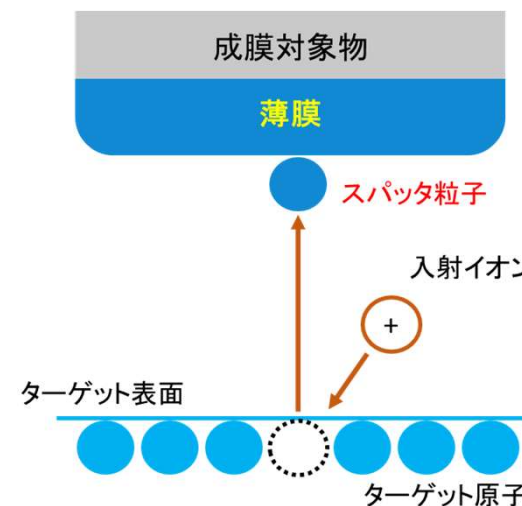
【主な成膜機能】

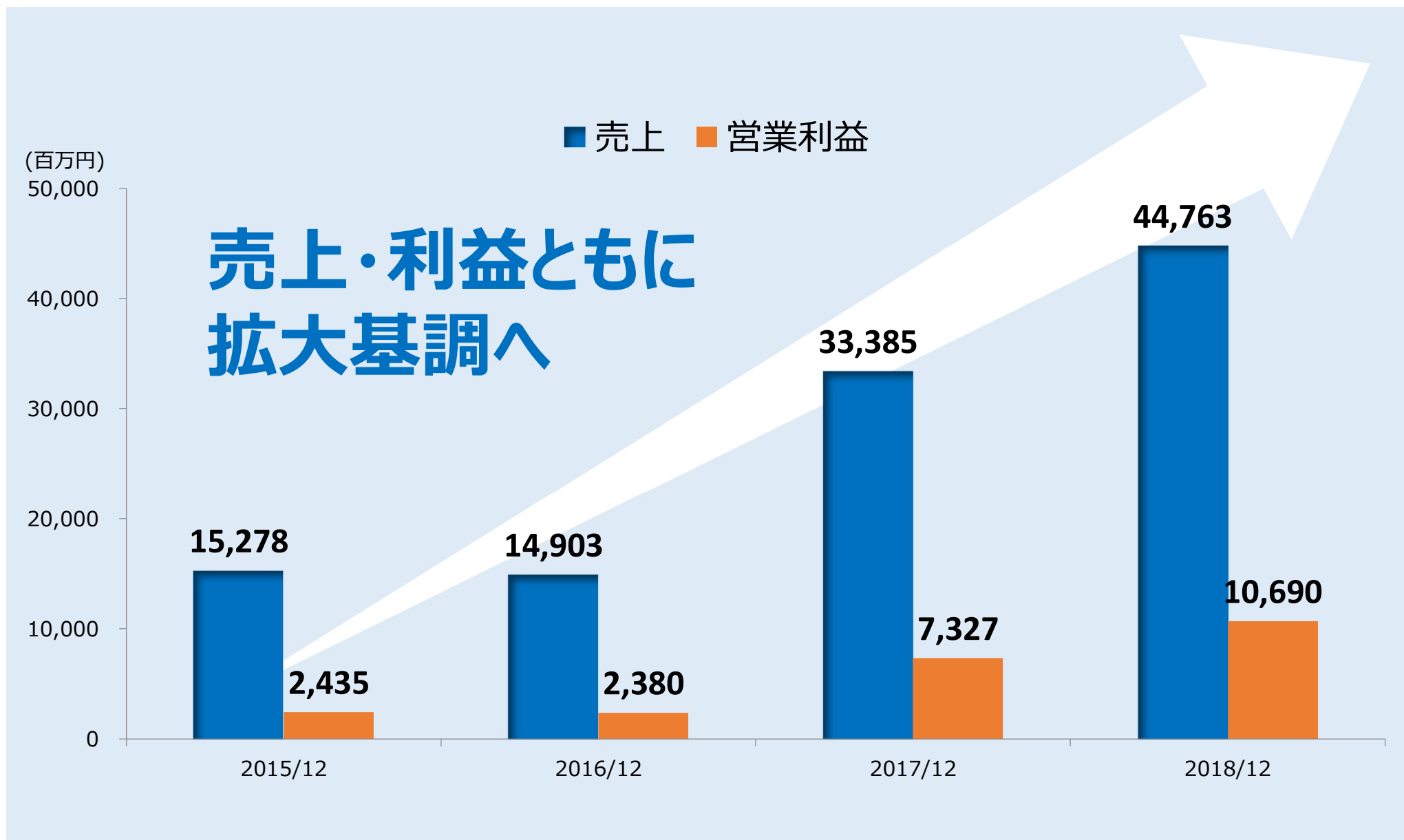
- 帯域フィルタなど

イオンビームアシスト蒸着方式



スパッタリング方式





業績は大幅伸長

- スマートフォンは北米系売上高が多いが、中国系の新規受注分売上高も貢献。
- カメラレンズ（監視カメラ）、IoT(生体認証・車載・半導体等)、LED向けも売上堅調。
- 米中貿易摩擦等の影響により、2月頃までは顧客の発注の先送りが顕著であったが、足元は改善の兆しあり。また、短納期を求める顧客が増加し、きめ細かなコンタクトが必要な状況。
- 2019年業績予想比、1Q達成率は、経常利益36%・純利益43%。

(百万円)

	2018年12月期 1Q	2019年12月期 1Q	前年同期比
売上高	10,710	13,975	+30.5%
営業利益	3,263	4,126	+26.4%
(営業利益率)	30.5	29.5	—
経常利益	3,426	4,110	+20.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,381	3,605	+51.4%
研究開発費	829	739	△10.8%

Ⅱ. オプトランの技術

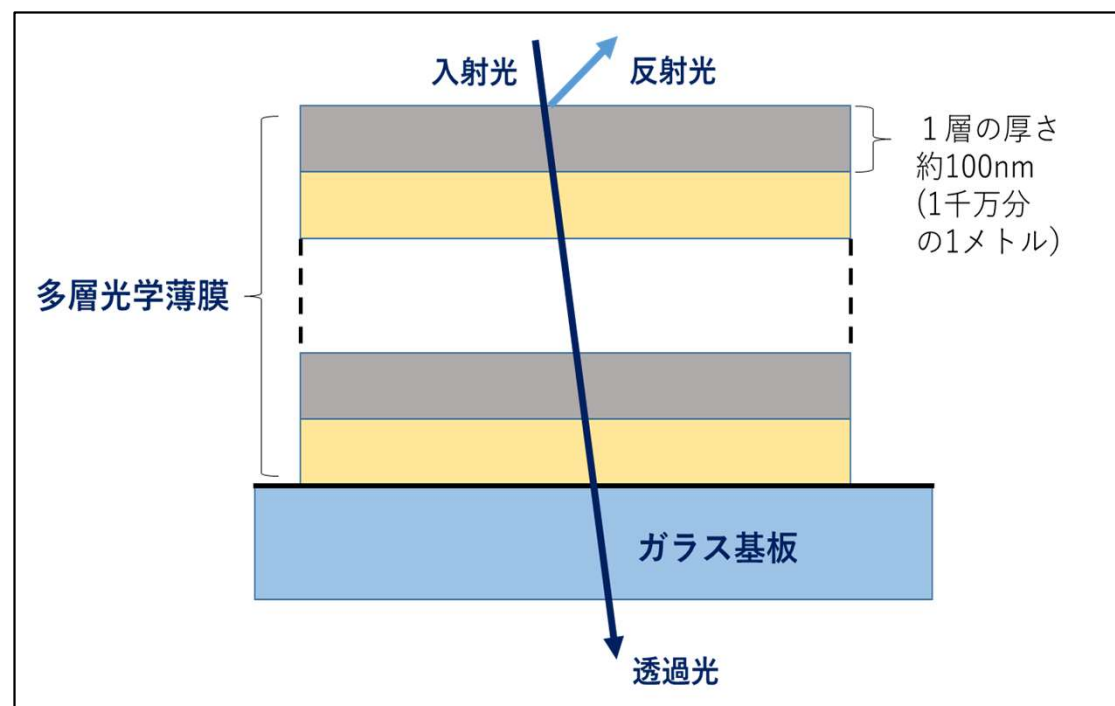
- 光学成膜とは
- 成膜例
- 当社の成膜技術

レンズ・フィルターに特定の光波長だけを透過・反射する薄膜を形成することで、鮮明な画像を実現し、スマートフォン・監視カメラの性能アップを行うと共に、顔認証・自動車衝突防止センサー等の機能を発揮させること。

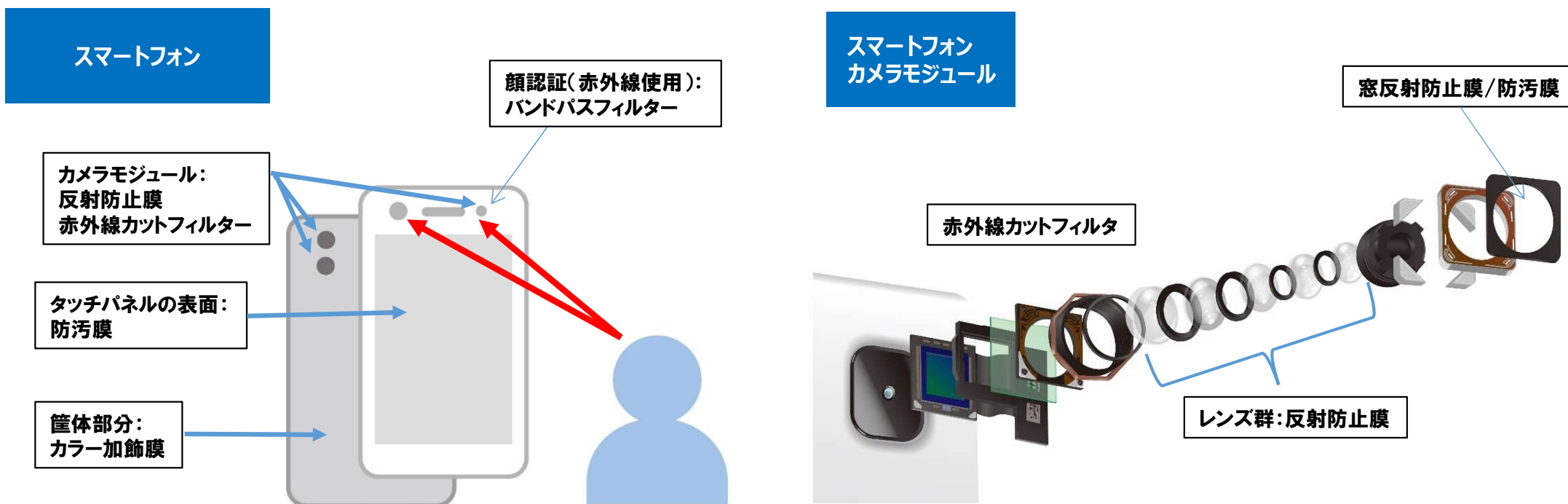
↓ 表面に
薄膜を形成

ガラス・樹脂・金属など

- ・反射防止膜
- ・増反射膜
- ・波長選択フィルタ (バンドパスフィルタ)
- ・電気を通す膜 (ITO膜)
- ・加飾膜
- ・防汚膜



当社の光学薄膜技術はスマートフォンに不可欠な多くの機能の実現に寄与

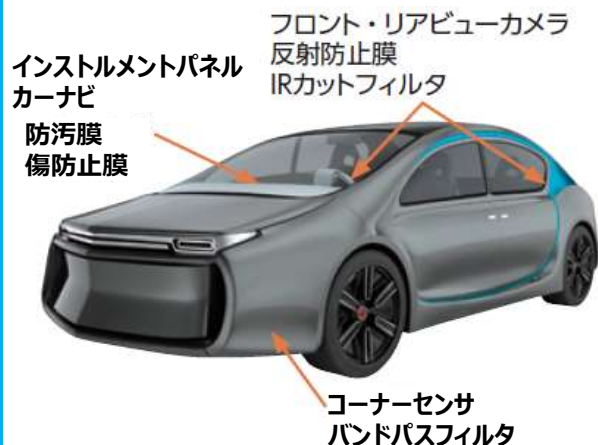


筐体部分：すべりにくく、手触りのよい膜の提供

車載

膜・フィルタ

- 防汚膜
- 傷防止膜
- 反射防止膜
- 波長選択フィルタ (バンドパスフィルタ)

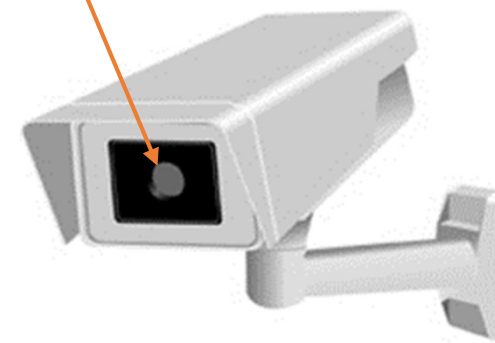


監視カメラ

膜・フィルタ

- 反射防止膜
- 波長選択フィルタ (バンドパスフィルタ)

反射防止膜
バンドパスフィルタ



一眼レフ カメラ

膜・フィルタ

- 反射防止膜
- 波長選択フィルタ (IRカットフィルタ or バンドパスフィルタ)

反射防止膜
赤外線カットフィルタ



LED

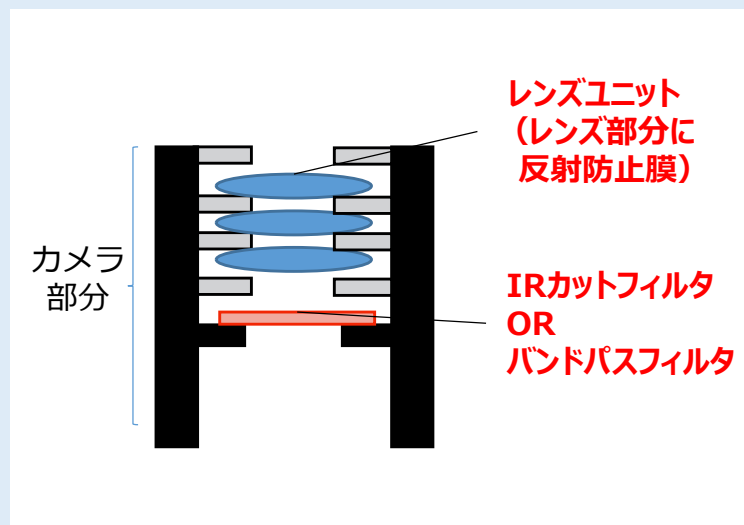
膜・フィルタ

- ITO膜
- 窒化アルミ膜
- 増反射膜



旧方式

レンズへの成膜→組立

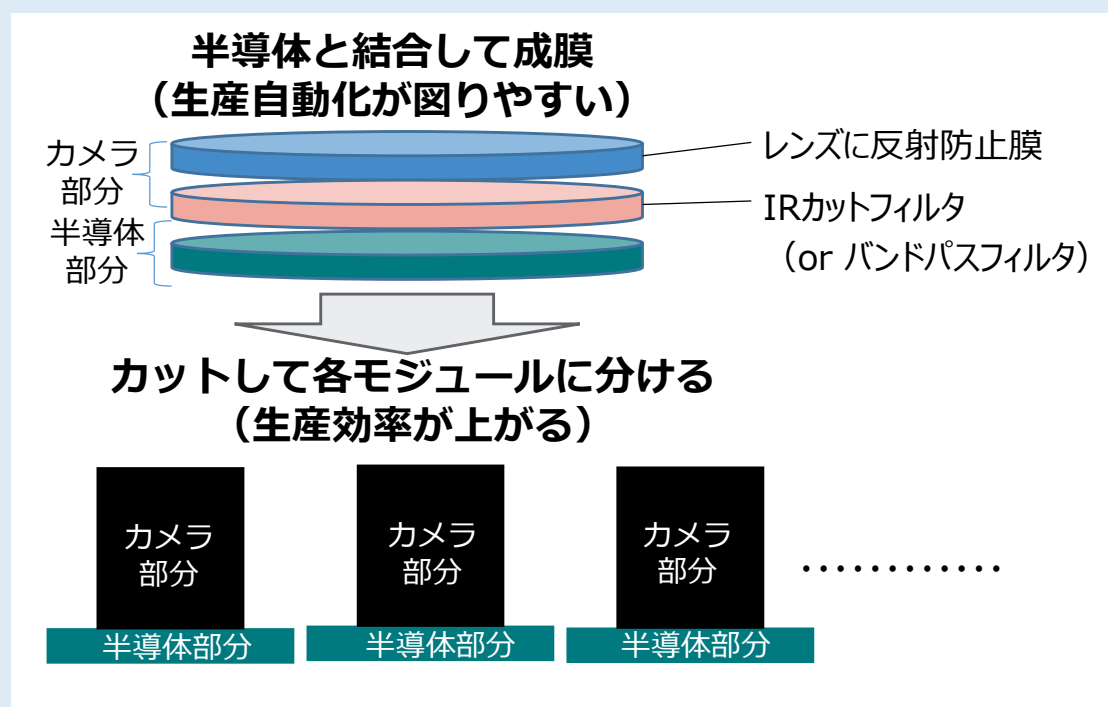


↓成膜後に半導体部分と結合



新方式

生産自動化及び半導体ウェハへ直接成膜



- 光学薄膜装置の半導体生産ライン自動化対応
- 半導体ウェハへ直接成膜

【市場・業界における当社光学薄膜技術の優位性】

- 1 多様な最高度技術者の集団を研究開発の推進役とする研究開発型企業の強み発揮。
- 2 創業以来、成膜ノウハウのソリューション提供力を重視し、最終製品の変遷へのタイムリーな対応力を持つ。
- 3 顧客との近さ。技術ニーズを顧客から受け、実験データにより顧客の最終製品の実現に道筋をつける、ウイン・ウインの関係での受注獲得力の強さ。



オプトランの技術・製品は、
最先端の成長市場におけるモノづくりに必要不可欠

Ⅲ. オプトランの事業戦略

- 事業コンセプト
- 事業戦略
- グローバルマーケットシェア

① ソリューション提供型のビジネスモデルを徹底し、最新の成膜装置を供給。

② 顧客との密接なコンタクトにより、実験データで顧客ニーズの実現に道筋。

③ 研究開発は顧客ニーズの発掘により実験テーマを定め、顧客とのコミュニケーションを継続。開発を受注につなげる実現力の高さ。

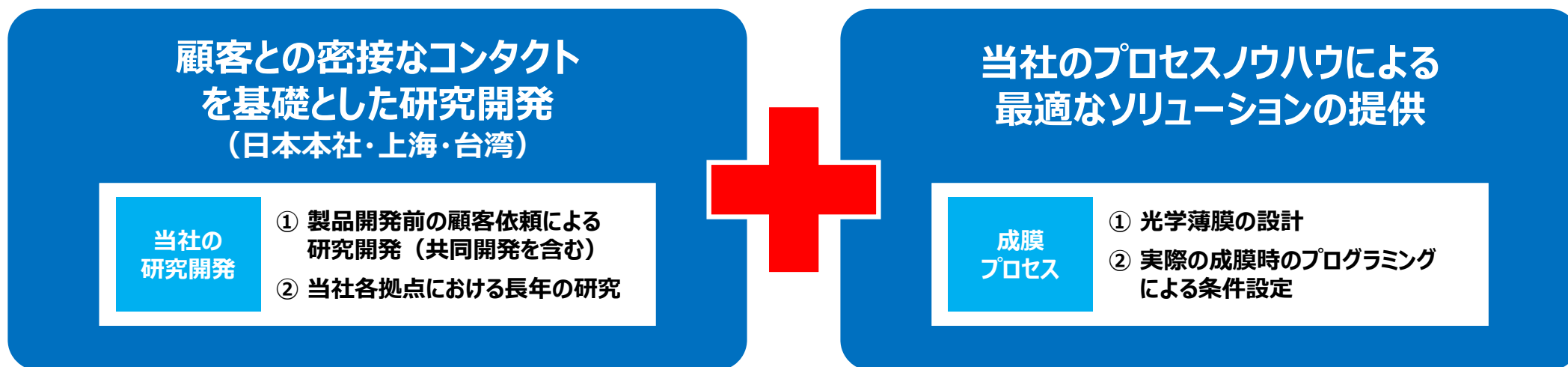
グローバル
マーケットシェア

No.1

事業戦略 ① ソリューション提供型のビジネスモデル



モノとノウハウを一体で売るソリューション提供により、当社は自ら市場を創造・拡大



顧客ニーズを的確に把握し、最適なソリューションを提供

顧客企業は、自らの技術的課題を解決するために当社の製品・技術の導入を安心して決断することが可能

新たな市場を持続的に創造・拡大

グローバル展開による顧客ニーズの把握

- 光学薄膜の開発・生産・販売の中心である中国・台湾・米国を中心に事業展開
 - ・日本は研究開発の基礎機能発揮と販売本部機能
 - ・上海は応用研究を中心とした研究開発。生産工場として中心的役割
 - ・台湾は電子部品・半導体関連研究開発拠点機能を拡充
- 拠点が顧客に近接することで顧客ニーズ把握・迅速なサービスを提供

Finland ●

電子部品メーカー
自動車部品メーカー
LEDメーカー
成膜メーカー

Shanghai ●

半導体メーカー
成膜メーカー

Taiwan ●

Kawagoe ●

素材メーカー
電気機器メーカー
電子部品メーカー
成膜メーカー

Silicon Valley ●

IT機器メーカー

グローバルマーケットシェア



米国と東アジアは、光学薄膜需要が集積する世界最大のマーケット
中国は世界の生産工場

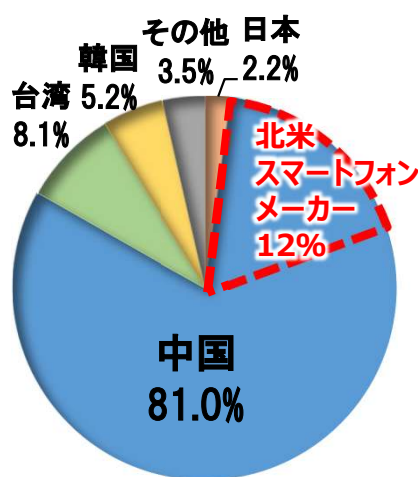


【当社】

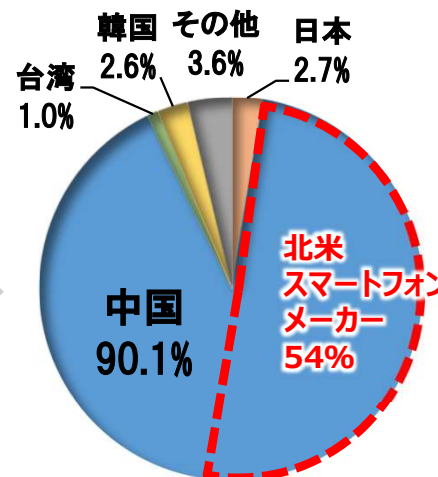
北米・東アジアに強い

地域別売上構成 (光学薄膜装置設置先)

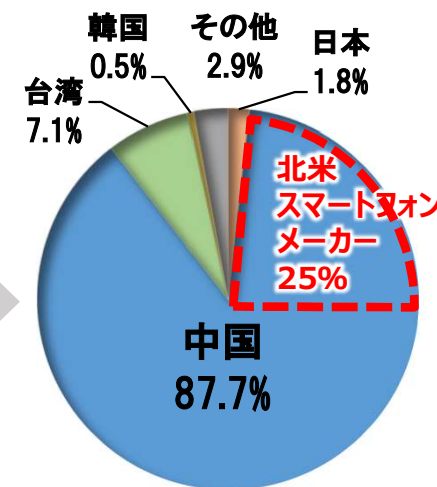
当社は、
世界最大市場である
「中国」を中心に
事業を展開



2016年12月期



2017年12月期



2018年12月期

IV. 今後の成長戦略

- 長期経営戦略
- 【施策①】 既存事業の戦略（光学薄膜関連）
- 【施策②】 応用分野の拡大
- 【施策③】 M&A・投資戦略
- 【施策④】 利益還元

長期ビジョン

**薄膜成膜分野において
世界市場をリードし続ける**

ビジョン実現に向けた
戦略基本方針

**光学薄膜事業において世界トップレベルの
研究開発型企业として持続的進化を図る**

中期的な
取り組み

中長期的な事業拡大の一環として、M&A・出資・提携・買収も重要な事業の柱を育てるため、積極的に検討

引き続き世界市場をリードする研究開発型企业としての地位を確固たるものとする

1 継続的な成長

- **技術開発の加速**：技術開発本部を中心として川越技術センター・上海・台湾・フィンランドの横断的運営により、総合力を発揮する体制を強化
- **マーケティング強化**：既存の成長分野であるIoT（生体認証、車載、半導体など）、LED分野や新規分野（5G等）での需要を取り込むため、マーケティングを強化

2 収益性の維持・向上

- **新型装置開発体制を強化し、技術力で収益性強化**

3 顧客満足度向上

- **光学薄膜＋関連新技術導入により、成膜技術に関する新提案を行い、顧客の新製品完成をアシストする**

【施策②】 応用分野の拡大

市場のニーズを迅速に取り込み、新規応用分野の拡大を目指す

自動車

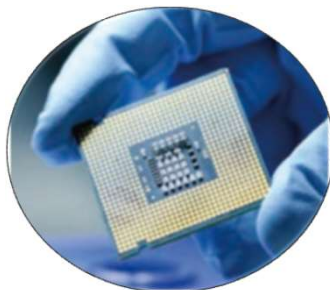
生体認証

半導体

LED

5G

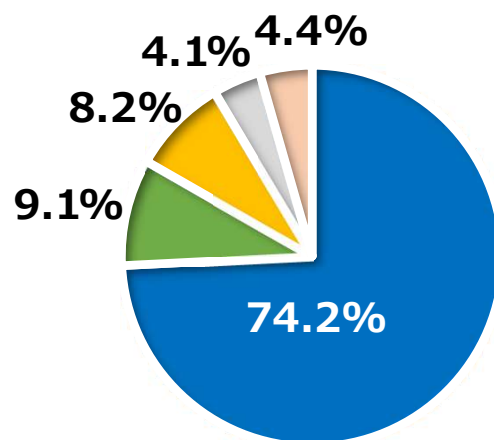
AI



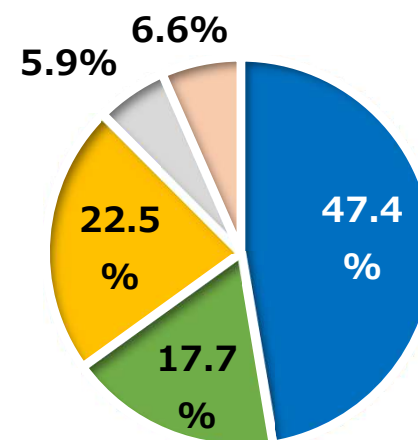
更なる応用分野の拡大へ

分野別
売上高構成比

- スマートフォン
- カメラレンズ
- IoT（車載、生体認証他）
- LED
- その他



2017年12月期



2018年12月期

広がるマーケット 5Gの広がり

5G (通信の第5世代)

メリット

- ① **高速化**
通信速度が4Gの100倍
- ② **低遅延**
伝達タイムラグ0.001秒
- ③ **多数同時接続**
1km²あたり6万台→100万台

波及効果

IoT普及が加速化

自動運転

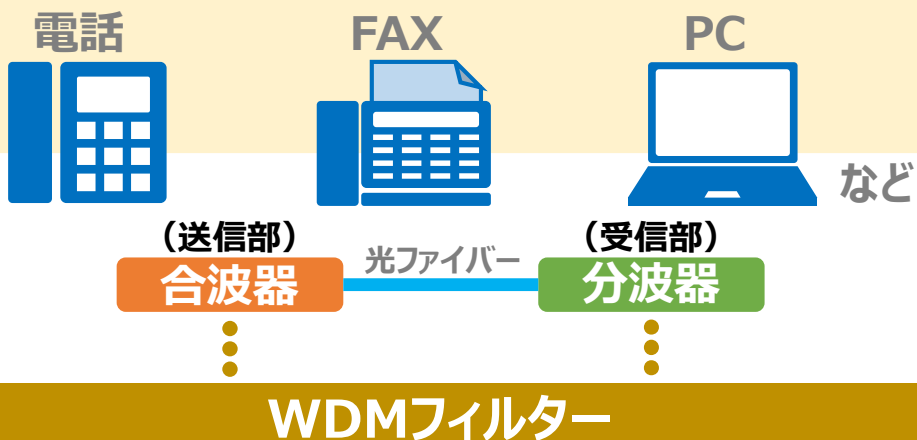
遠隔操作

課題

- ① 対応端末の開発
- ② 基地局の拡大
- ③ アンテナの整備
- ④ 光回線の増加

5Gにおける成膜例

光通信の場合



移動体通信の場合



1 M&A戦略

更なる事業拡大の一環として、当社の光学薄膜技術と補完関係や、開発・生産・販売面でのシナジー効果が期待できる企業へのM&Aを検討

2 投資戦略

有望な技術を保有する企業や、当社装置製造のアウトソーシングが可能な企業等には、企業への投資も検討



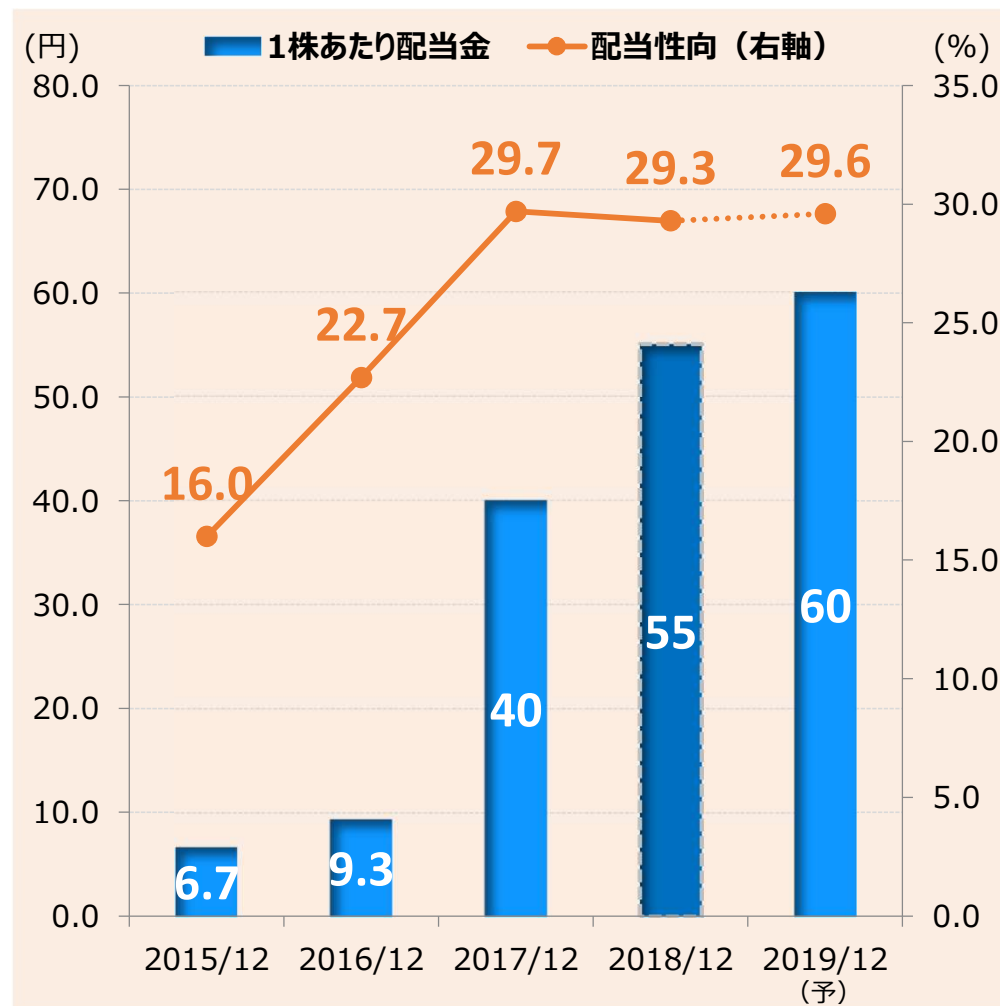
研究開発・新規事業等の成長投資、生産体制強化等の必要な資金を確保しつつ、余力は株主還元を実施し、株主価値最大化を目指す

株主還元を着実に実施します

配当方針

研究開発投資、生産体制強化、新事業開拓等の必要な内部留保資金を確保しつつ、余力は株主還元を最大限実施します。

連結配当性向30%程度を目安に、
安定的な配当を目指します。



※ 2017年3月18日付で1:1,000の株式分割、及び同年10月13日付で1:3の株式分割を実施
2017/12期以前の1株当たり配当金は上記株式分割を反映し、遡及修正して表記

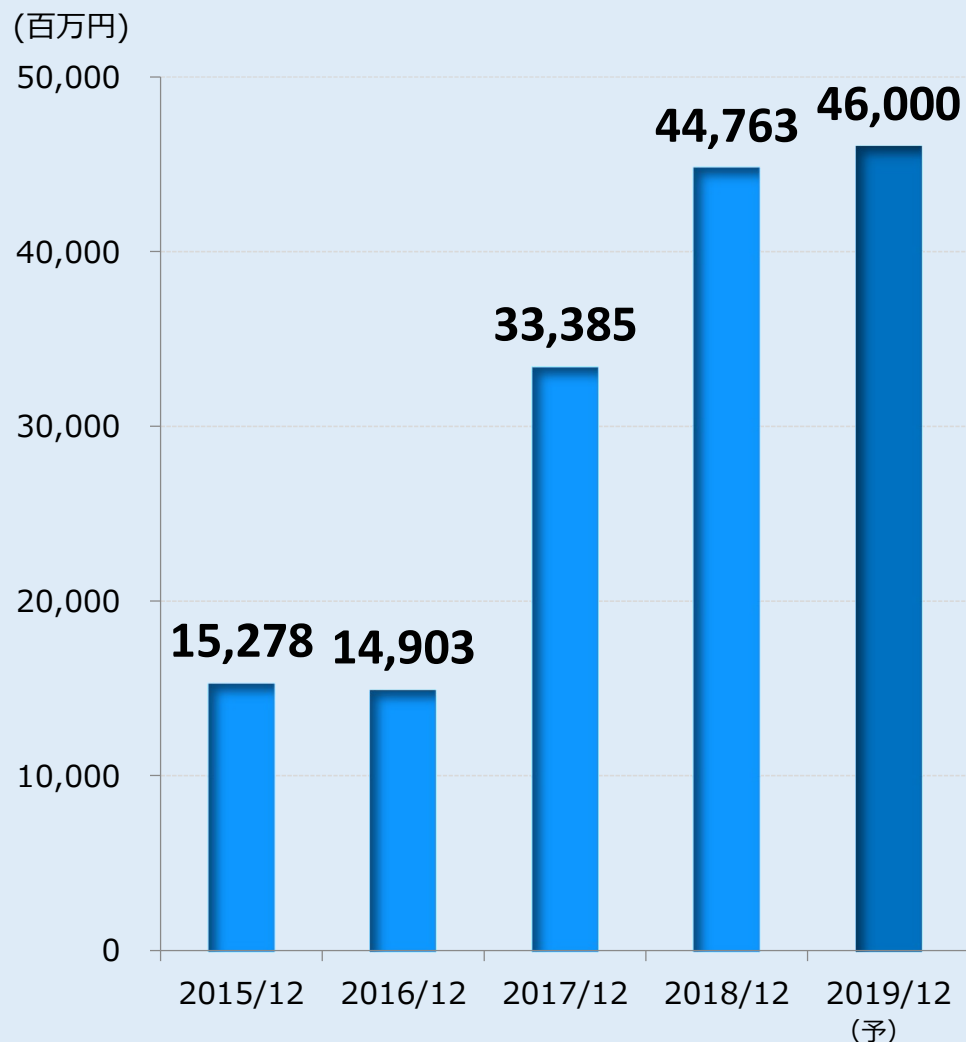
Appendix

- 売上高及び受注高・受注残高の推移
- 営業利益及び研究開発費の推移
- 財務の状況
- 2019年12月期 業績予想

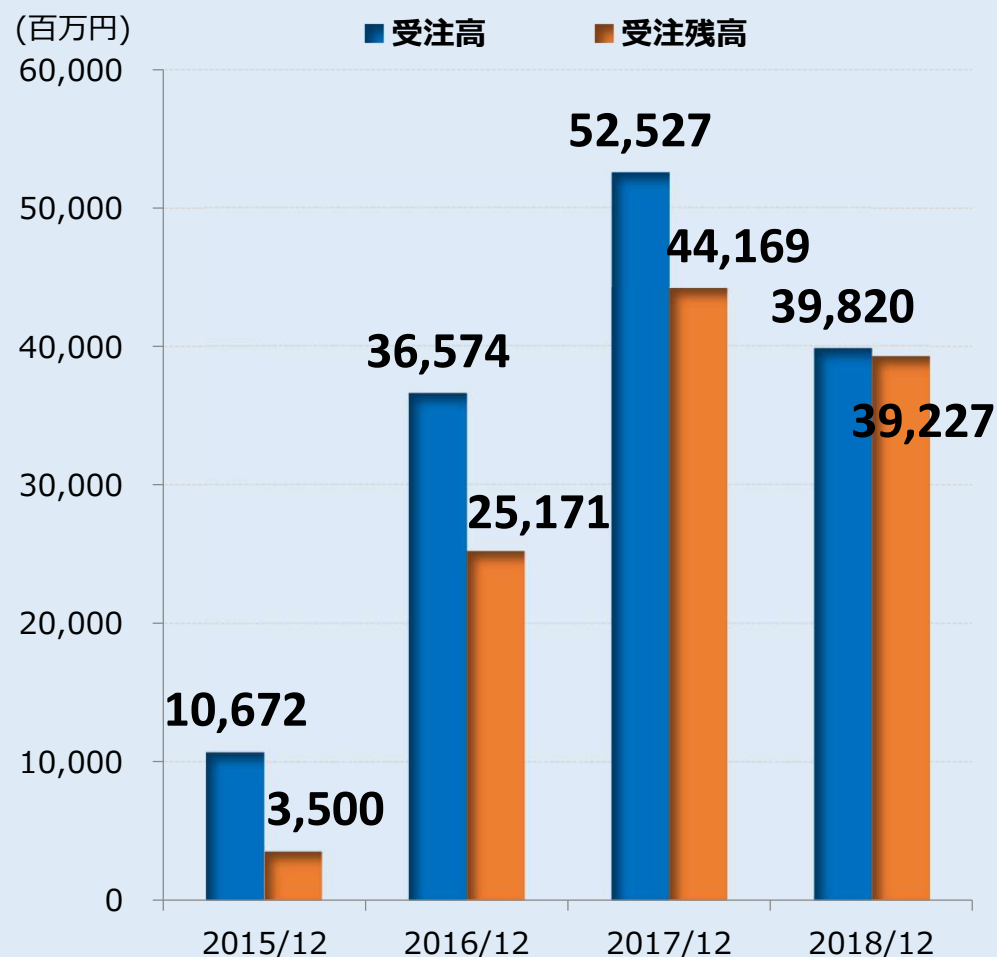
売上高及び受注高・受注残高の推移



売上高の推移



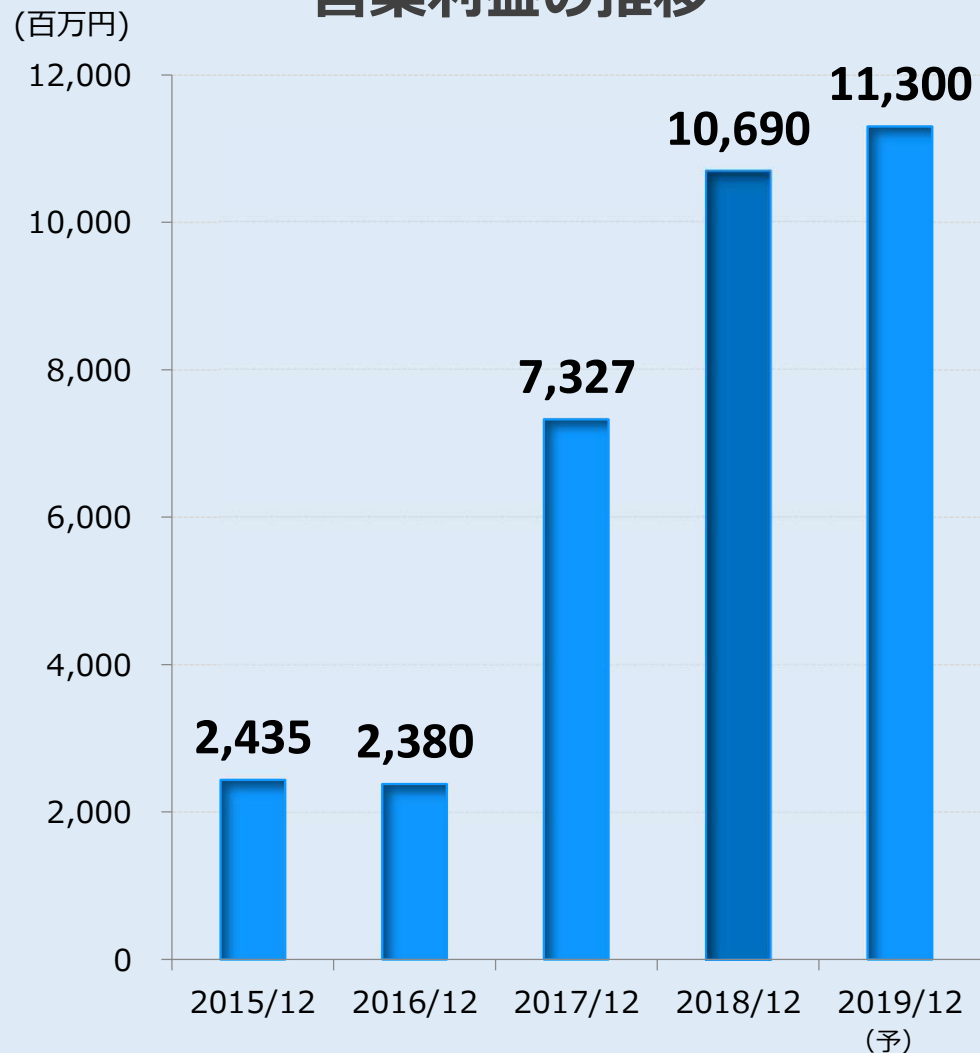
受注高・受注残高の推移



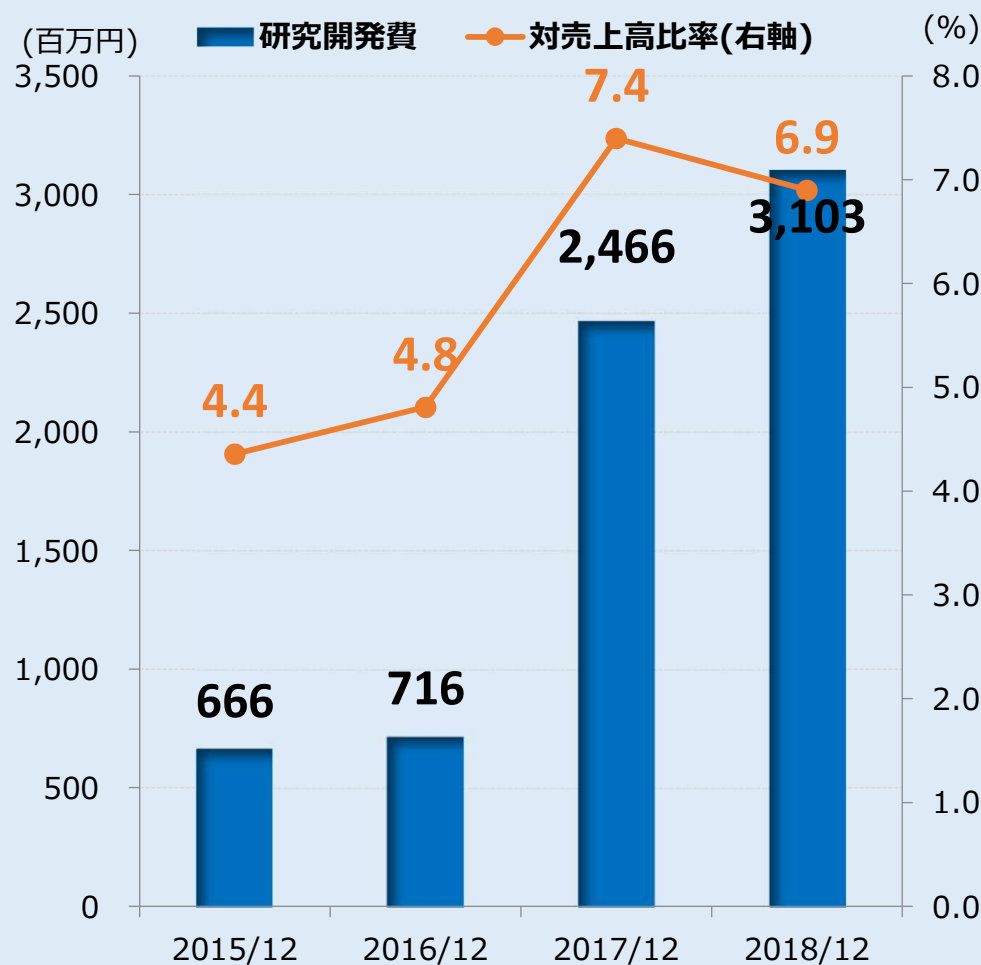
営業利益及び研究開発費の推移



営業利益の推移



研究開発費の推移



財務の状況



	2017年12月期末		2018年12月期末		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額
流動資産	52,255	92.6%	49,567	88.7%	△2,688
現金・預金	19,893	35.3%	15,740	28.2%	△4,153
受取手形・売掛金	3,380	6.0%	6,837	12.2%	+3,457
棚卸資産	25,107	44.5%	24,487	43.8%	△620
貸倒引当金	△181	△0.3%	△420	△0.8%	△239
その他	4,055	7.2%	2,922	5.2%	△1,133
固定資産	4,169	7.4%	6,329	11.3%	+2,160
資産合計	56,425	100.0%	55,896	100.0%	△529
流動負債	32,038	56.7%	25,935	46.4%	△6,103
支払手形・買掛金	7,303	12.9%	1,652	3.0%	△5,651
短期有利子負債	9,193	16.3%	756	1.4%	△8,437
その他	15,541	27.5%	23,526	42.1%	+7,985
固定負債	1,780	3.2%	1,898	3.4%	+118
長期有利子負債	432	0.8%	233	0.4%	△199
その他	1,347	2.4%	1,665	3.0%	+318
負債合計	33,818	59.9%	27,834	49.8%	△5,984
純資産合計	22,606	40.1%	28,062	50.2%	+5,456
負債純資産合計	56,425	100.0%	55,896	100.0%	△529

・借入金返済
・支払手形・買掛金支払

・出資の増加

・出荷未検収装置の増加による前受金の増加

・利益剰余金の増加

2019年12月期 業績予想



(百万円)

	2018年12月期 実績	2019年12月期 予想	前期比
売上高	44,763	46,000	+2.8%
営業利益	10,690	11,300	+5.7%
(営業利益率)	(23.9%)	(24.6%)	—
経常利益	10,992	11,300	+2.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,745	8,400	+8.4%
研究開発費	3,103	3,900	+25.7%

免責事項・注意事項ならびにお問合せ先



当資料に記載された内容は、2019年5月24日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【お問合せ先】

E-mail : ir-info@optorun.co.jp

TEL : 049-239-3381